

羅針盤			方策	アンケート項目		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		職員	児童	保護者
(1) 業務改善・組織運営	・業務改善を進め、やりがいのある温かい職場をつくり、校内研修やメンター研修・OJTで力を付け、教育の質の向上を図っている。	・やりがいのある温かい職場で力が付き、教育の質が向上したと考える職員が80%以上。	・提言R5をもとに廃止、縮小、ICT化の観点から業務の見直しを進め効率的な学校運営を行う。 ・ノー残業デーで効率的な仕事を意識する。 ・温かい言葉で会話をする。 ・校内研修・メンター研修で教え合う。	・やりがいのある温かい職場で力が付き、教育の質が向上した。		
(2) 確かな学力	・ICTを積極的に活用するとともに、問題解決的な学習過程を工夫し、指導と評価の一体化を図る中で、求められる資質・能力を確実に高めている。	・ICTを積極的に活用するとともに、問題解決的な学習過程を工夫し、指導と評価の一体化を図る中で、求められる資質・能力を確実に高めていると考える職員が80%以上。先生や友達の話の内容が分かるように意識して聞いたり、伝えたりしている児童が80%以上。子どもは学校の学習内容を理解していると考えられる保護者が80%以上。	・ICTについて研修を行い、授業で活用する。 ・問題解決的な単元構成を工夫し、聞き合う場を設定する。 ・協働的な学びとして交流活動を通して学びの室を高める。 ・学習状況を見取り個別最適な学びを工夫する。	・ICTを積極的に活用するとともに、問題解決的な学習過程を工夫し、指導と評価の一体化を図る中で、求められる資質・能力を確実に高めている。	・先生や友達の話の内容が分かるように意識して聞いたり、伝えたりしている。	・お子さんは学校の学習内容を理解している。
(3) 豊かな人間性	・考え議論する道徳の授業、生徒指導の3つの機能を生かした指導・支援、社会性を育成する機会の充実を図っている。	・考え議論する道徳の授業、生徒指導の3つの機能を生かした指導・支援、社会性を育成する機会の充実を図っていると考える職員が80%以上。友だちと仲良く助け合い、優しく親切にできると考える児童が80%以上。学校が異学年や他校との交流に取り組んでいると考えられる保護者が80%以上。	・考え議論する道徳の授業の充実を図る。 ・思いやり(人権感覚・想像力)の気持ちや自己肯定感を育成する生徒指導を推進する。 ・縦割り活動を取り入れることによりコミュニケーション能力の育成を図る。	・考え議論する道徳の授業や、生徒指導の3つの機能を生かした指導・支援、社会性を育成する機会の充実を図っている。	・友達と仲良く助け合い、優しく親切にできる。	・学校は、さまざまな学年と一緒に活動したり、他校と交流したりする活動に取り組んでいる。
(4) 健やかな体	・家庭・地域・専門家等と連携して、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、運動の楽しさを実感させながら体力向上を図っている。	・基本的な生活習慣や正しい姿勢を身に付けさせるとともに、運動の楽しさを実感させながら体力向上を図っていると考える職員が80%以上。正しい姿勢で授業を受けようとしている児童が80%以上。子どもは、正しい生活習慣を身に付けようとしていると考えられる保護者が80%以上。	・自己課題を解決する体育の授業を工夫する。 ・握力・投力を高めるよう朝行事を工夫する。 ・学校保健委員会活動を中心に、正しい姿勢を意識させる。 ・家庭と連携し、脱ゲーム依存による正しい生活習慣を意識させる。	・家庭・地域・専門家等と連携して、基本的な生活習慣や正しい姿勢を身に付けさせるとともに、運動の楽しさを実感させながら体力向上を図っている。	・正しい姿勢で授業を受けようと意識している。	・お子さんは、正しい生活習慣を身に付けようとしている。
(5) 学校安全・危機管理	・家庭・地域・専門家等と連携して、学校生活や登下校の安全を確保するとともに、基本的な感染症対策を実践する意欲の向上を図っている。	・家庭・地域・専門家等と連携して、学校生活や登下校の安全を確保するとともに、基本的な感染症対策を実践する意欲の向上を図っていると考える職員が100%以上。事故や災害、不審者等から自分を守るために、どのように避難したらよいか分かる児童が90%以上。子どもが、事故や災害、不審者等から自分を守るための行動が分かっていると考える保護者が90%以上。	・家庭・地域・専門家等と連携し、実生活で役立つように工夫して、避難訓練や安全指導を実施する。 ・手洗い、うがいなどの基本的な感染症対策を実践させる。	・家庭・地域・専門家等と連携して、学校生活や登下校の安全を確保するとともに、基本的な感染症対策を実践する意欲の向上を図っている。	・事故や災害、不審者等から自分を守るために、どのように避難・行動したらよいか分かる。	・お子さんは、事故や災害、不審者等から自分を守るための行動が分かっている。
(6) 進路・生き方	・特別活動を中心に、自分らしく役割を果たすことの大切さや、自己肯定感、将来の夢を育み、学習意欲を高めている。	・特別活動を中心に、自分らしく役割を果たすことの大切さや、自己肯定感、将来の夢を育み、学習意欲を高めていると考える職員が80%以上。大人になったらなりたいたいものがあるという児童が80%以上。子どもと将来の夢ややってみたい仕事について話したことがあるという保護者が80%以上。	・児童会活動や係活動、当番活動を通して、役割を果たすことの大切さを理解させ、自己有用感を持たせる。 ・キャリア・パスポートを活用する。 ・キャリア講話を実施する。 ・キャリア教育全体計画の活用を図る。	・特別活動を中心に、自分らしく役割を果たすことの大切さや、自己肯定感、将来の夢を育み、学習意欲を高めている。	・大人になったらなりたいたいものがある。	・お子さんと、将来の夢ややってみたい仕事について話したことがある。
(7) 家庭や地域社会	・情報発信を積極的に行い、家庭・地域の願いに耳を傾け、地域を生かした教育活動を工夫している。	・情報発信を積極的に行い、家庭・地域の願いに耳を傾け、地域を生かした教育活動を工夫していると考える職員が80%以上。地域のことについて勉強していると考える児童が80%以上。学校での子どもの様子が分かると考える保護者が80%以上。	・家庭や地域社会との連携・協働を推進する。 ・各種便り、HP等で情報発信する。 ・明るく、優しく丁寧に対応し、保護者が相談しやすい雰囲気を作る。 ・学校運営協議会と連携し、外部講師や地域を生かした学習活動を工夫する。	・情報発信を積極的に行い、家庭・地域の願いに耳を傾け、地域を生かした教育活動を工夫している。	・地域の人からお話を聞いたり、地域のことについて勉強したりしている。	・学校からの便りや学校のHPなどから学校でのお子さんの様子が分かる。
(8) 特別支援教育	・家庭・専門家等と連携し、一人一人の教育的ニーズを把握し、全職員で共通理解して教育的支援に当たっている。	・家庭・専門家等と連携し、一人一人の教育的ニーズを把握し、全職員で共通理解して教育的支援に当たっていると考える職員が80%以上。何か困った時に相談にのってくれる人がいると考える児童が80%以上。学校にはSC等の専門家が訪問して相談できることを知っている保護者が80%以上。	・家庭や専門家と連携して、一人一人の教育的ニーズを把握する。 ・校内教育支援委員会等での話し合いを通して、全職員で共通理解して教育的支援に当たる。 ・教育相談日を活用したり、相談記録を蓄積したりして、相談活動を充実させる。	・家庭・専門家等と連携し、一人一人の教育的ニーズを把握し、全職員で共通理解して教育的支援に当たっている。	・何か困った時に相談にのってくれる人がいる。	・学校にはスクールカウンセラー等の専門家が訪問しており、相談できることを知っている。
(9) 郷土を愛する教育	・総合的な学習の時間を核としてユネスコスクール活動を充実させ、郷土みなかみを知り、愛する児童を育成している。	・総合的な学習の時間を核としてユネスコスクール活動を充実させ、郷土みなかみを知り、愛する児童を育成していると考えられる職員が80%以上。みなかみ町のことを勉強することが楽しいと考える児童が80%以上。	・ユネスコスクール活動全体計画を見直し、改善を図り、総合的な学習の時間の成果を様々な手段で地域や保護者に発信する。 ・総合的な学習発表会を通してユネスコスクール活動を充実する。	・総合的な学習の時間を核としてユネスコスクール活動を充実させ、郷土みなかみを知り、愛する児童を育成している。	・みなかみ町のことを勉強することは楽しい。	